

空にうかぶく自然に囲まれ、港を望む駅 北陸新幹線敦賀駅舎、工事始動中



新幹線駅舎正面



コンコース



新幹線ホーム

令和6年春、北陸新幹線がいよいよ敦賀開業になります。2年後の開業に向けて、昨年9月から敦賀駅舎の工事が始まりました。そこで今回の特集では、施工業者から見た敦賀駅舎工事をご紹介します。

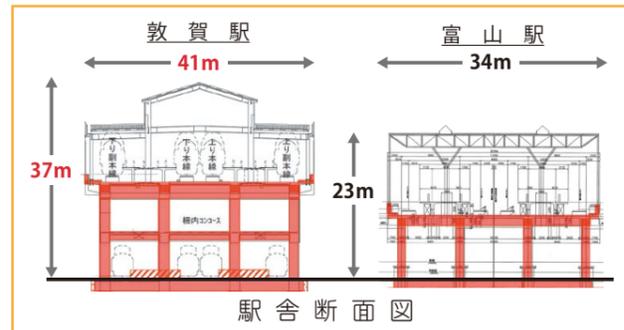
整備新幹線の駅で最大となる敦賀駅

敦賀駅は1階が在来線特急ホーム、2階がコンコース（乗換改札通路）、3階が新幹線ホームの最大高37mの駅舎で、整備新幹線の駅の中で最大の高さを誇ります。また、北陸新幹線富山駅の3倍以上の床面積があります。特に他駅に類を見ないのが巨大なコンコースです。

すべての資材に対して揚重作業が必要であることから、搬入動線確保に綿密な計画を要します。

また、駅構内には、エスカレーター26台、エレベーター9台、自動改札22通路、ムービングウォーク（動く歩道）2台が設置される予定です。別途工事であるこれらの搬入、

工程計画も建築工事と密接に関わってきますので、全体工程に影響しないよう、駅部の統括管理事業者として関係者全体を調整し、取りまとめています。



駅舎断面図

北前船をイメージした内装

コンコースは、北前船にちなんだ工夫が盛り込まれています。幕を使用した天井で計画されており、きれいな曲面に見えるよう工夫が必要です。幕の上（天井内）は人が歩けない為、天井内すべての工事を先に完了させる必要があります。

また、柱には、敦賀の歴史を示す水引幕をあしらいます。市民の熱い思いを形にするという重責を担い、駅部で工事に携わる職人にとっても大変やりがいのある工事です。

新幹線ホームの床は、船の甲板をイメージした木調タイルで仕上げ、待合室は船をモチーフにしたデザイン

ンとなっており、港まちとして栄えた敦賀を象徴するようなデザインとなっています。

安全第一で進める工事

2月1日から旅客上家と呼ばれる新幹線ホーム階の鉄骨工事に着手しました。冬期間の悪天候が心配ですが、事故が起こらないよう安全最優先で進めます。最大24tの柱を大型クレーンで吊り込み、全体で3千5百tの鉄骨工事を無事故で完了させる目標です。

引き続き屋根、外装工事



上家の柱となる鉄柱をクレーンでつり上げる様子

を進めますが、こちらは夏の場の炎天下の過酷な環境での工事となります。気象情報も含めていち早く異常を察知できるようにし、熱中症予防に万全の対策で臨んでいます。

また、感染症対策も徹底しています。毎朝全員検温しチェックシートで確認、37・0℃以上の発熱時は現場に入場していません。

休憩所の24時間換気、消毒はもちろん、全ての席にパーテーション設置、作業中、休憩中もマスクは常に着用しています。激しい作業をする時であっても、他

人と2m以内に近づくと際はマスク着用を徹底しています。

旅客上家は敦賀市内からよく見えます。携わる職人には敦賀市民に見ていただくけるステイジのような職場で存分にその職人技を発揮してほしいと思います。

鉄骨工事が終わると間もなく屋根外装工事のため外部足場を組み立てますのでしばらくは旅客上家の進捗は見えなくなりますが、今年末から外部足場の解体が始まると順次外観が現れます。日々の進捗を楽しみにしていきましょう。

今後のスケジュール

- R3.9** 駅舎工事がスタート
- R4.2** 上家工事開始。柱となる鉄柱をクレーンでつり上げ立てる
- R4年内** 屋根・外装工事完了予定
- R5.3** 足場が取れて、駅舎外観が見られるように
- R5秋** 内装工事も含め完了予定



鹿島・竹中土木・前田産業特定建設工事共同企業体 北陸新幹線、敦賀駅新築JV工事事務所 所長 横田 光司 さん

Interview

※現場入場時は、常時マスクを着用していますが、撮影時のみマスクを外しています。

敦賀駅舎は大きさだけでなく、立地条件でも施工が難しい建築物です。

敦賀湾を抱えた地形条件から風が集まり強風が吹く特性があります。地上ではそよ風程度でも、新幹線ホーム階では10m/sを超える強風が吹くこともあります。昨年12月には25m/sという台風直撃

並みの暴風が吹きました。

JR北陸本線が近接しているため、飛散物による事故が無いよう施工にあたっています。

また、東側には木の井川が流れ、西側には営業線が隣接していることから、狭小なヤード（資材置き場）しか確保できませんでした。加えて、先行する周辺工事の建屋などにより、当初想定していた作業車などの配置ができず、全面的に見直す必要がありました。

工事の受注後、我々の工事着工時期が大幅に遅れることが分かったときは愕然としました。

しかしながら、国家プロジェクトである北陸新幹線延伸事業の中でも、特に多くの方の期待を背負った敦賀駅をなんとかしても予定工期までに完成させるべく、関係者で多くの工期短縮・業務効率化に取り組んでいます。

市民の皆さまにはもちろんのこと、来てくれた職人さん皆さまに「携わってよかった」と喜んでいただける敦賀駅を目指していきます。